



1 店内調理が特色！地元産の新鮮野菜を使用した「インスタサラダ」を販売。毎日の食卓に新鮮で美味しい一品を届ける
2 地域貢献活動の一環として、地域スポーツを幅広く応援。バレーやサッカーなどを地元チームと共催している
3 地域の幼稚園・保育園児を対象とした「5DAY食育体験ツアー」の様子
4 鶏肉のノントレー真空パック包装を導入。トレーをなくすことにより、エコ活動に貢献している
5 梅林裕暁社長
7 就業上の問題を相談できる労働組合もあるので安心
8 福利厚生として行っている奨学金返済支援は最大180万円を支援
9 新入社員合同研修で先輩社員と交流する様子。研修は1年4か月と手厚いサポート
10 店舗の活動を支える本部スタッフ。催事や急な欠員が出た時も応援に駆けつける
11 パートと正社員の垣根がなく、一人一人の力を合わせて仕事が進む
12 中上義紀人事部長



2020年から、大卒などの新入社員を対象に《奨学金返済支援制度》を開始。入社後10年間にわたる月額1万5000円を会社が補助する制度で、「金銭面の負担を少しでも軽減し、安心して成長に生かしてほしい」との想いで導入を決定した、と中上義紀人事部長は話す。良い店づくりの根底には、温かい、人づくりがある。

奨学金返済支援制度で負担軽減
 2020年から、大卒などの新入社員を対象に《奨学金返済支援制度》を開始。入社後10年間にわたる月額1万5000円を会社が補助する制度で、「金銭面の負担を少しでも軽減し、安心して成長に生かしてほしい」との想いで導入を決定した、と中上義紀人事部長は話す。良い店づくりの根底には、温かい、人づくりがある。

チェーンストアとして新たなスタートを切った。「組織が変わっても、地域のお客様の生活を支えるという私たちの使命は、創業から変わることはありません。しかしながら、お客様が企業に求める価値は時代に合わせて変化します。その価値に対応するには、まるごこの強み」をさらに磨いていかなければなりません」と、梅林裕暁社長は語る。

「まるごこの強み」とは、季節感や旬を生かした生鮮食品を中心に、顧客が買い求めやすいよう加工し提供する。これを高品質で安定的に供給できるのは、取引先や従業員の力によるものだ。特に「人材育成、人事制度と労務管理、従業員が安心して力を発揮できる環境づくりに力を入れています」と梅林社長は力を込める。

暮らしに貢献し、地域一番店へ
 1954年、西倉吉町に《まるごと》第一号店を開業した当初から協同組合として事業を行っていたが、2010年に株式会社へ組織変更。大手スーパー、ドラッグストアなどの進出で競争が激しくなる中、次代を担う「地域密着型」スーパーの在り方を見据え、事業を再構築。会社のロゴマークや企業理念を一新し、店舗内レイアウトを統一するなど、

時代に合った新たな価値を提供「ふだんの生活」を支え続ける

鳥取県米子市を本拠地に、山陰で23店舗を展開する《まるごと》。2016年より既存店の大規模改装を順次進め、2025年8月には米子市の《みのかや店》がリニューアルオープンした。



株式会社 丸合

創 業 昭和29 (1954) 年11月1日
 代表者 代表取締役社長執行役員 梅林 裕暁
 社員数 1290名 (男430名 女860名)
 本 社 鳥取県米子市東福原2-19-48
 やす井ビル2~5階

事業内容

食品スーパーマーケット

勤務地(採用エリア)

松江市、米子市、出雲市、倉吉市、安来市、境港市、西伯郡、日野郡

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 公式サイト、マイナビ、リクナビにて、日程などを随時更新。電話・メールでの申込み可。

採用担当者からあなたへ

食品スーパーは、地域の食と安心を支える、なくてはならない大切な存在です。特別なスキルよりも、「正直さ」と「誠実さ」が何より評価されます。あなたが関わった一つ一つが、毎日の食卓の安心と幸せにつながっています。この仕事に誇りを持って、ぜひ私たちと一緒に地域を元気にしませんか？

管理本部人事部
 採用・能力開発グループ
 上田さん

採用に関するお問い合わせ先

0859-39-0501

公式サイトはこちら



Instagramはこちら



LINE (米子地区)はこちら



非正規雇用のパートナー社員から正社員へ 実務経験を糧に店舗開発に職域を広げる

東福原店のプロサラー部門（常温食品・飲料・菓子などを扱う）で2年間、パートナー社員として働き、正社員となった。入社後は食肉部門に配属され、2023年にリニューアルした五千石店、弓ヶ浜店で店舗実務を経験。24年6月から、本部で新規出店計画や既存店舗の建て替え・改修を行う店舗開発の仕事に挑戦している。リニューアルしたみのかや店は、店内の天井が吹き抜けで開放感があるが、店舗開発部が施設の商品保持や衛生環境を向上させるために、新たに取り入れたもの。「上司や先輩方と県外の店を視察するなど建設計画を立て、建物や設備に関わる工事業者と密に関わりながら無事再オープンを迎え、やりがいを感じています」。一方、新たな出店計画にも取り組んでいる。



本部店舗開発部
Sさん
2021年入社(5年目)



入社2年目でリニューアル店舗に抜擢 肉の加工技術をさらに磨いて部門に貢献を

自宅の近所にまるごうがあり、子どもの頃から身近な存在だった。新入社員研修では、本部の集合研修でスーパーの社員としての基礎知識を学び、接客・レジ打ち・包装などの基礎訓練を受けた。その後、米子南店でレジや水産など、部門ごとでOJT研修を受け、安来店の食肉部門に配属。今年3月東福原店異動を経て、8月に改装店舗のみのかや店に抜擢された。食肉部門では、鶏肉、豚肉、牛肉を部位ごとに整形して、商品に加工していく。「中でも牛肉の加工は難しいです。部位が多く、それぞれに肉質や繊維の方向、味や食感が大きく違います。おいしく提供できるよう、早く正確に、綺麗にカットできるようにになりたいです」。部門の上司、4名のパート社員と連携しながら奮闘中だ。



みのかや店 食肉部門
Mさん
2024年入社(2年目)



従業員の成長とお客様の満足度につながる コミュニケーション能力が高まる職場

県外の芸術系大学に進むも、アルバイト先の鮮魚店で接客と商売の楽しさを実感した。出身地・鳥取県内で就職を考えた時、子どもの頃からおつかいに行っていたスーパーに決めた。「人と接するのが好きで、地元で誰もが知る企業。両親も安心してくれました。スーパーの仕事は、奥深い。日々得るのがあって、飽きることはありません」。これまで副店長、店長、商品部などを経て、人事部マネジャーへ。まるごうの仕事の魅力は、日々のスタッフの基本的な接客スキルからくる「コミュニケーション能力の高さ」にあるという。「部長、店長、マネジャーなど管理職は、店舗で経験を積み、仕事のプロセスを知っています。だから、新人の悩みや店舗の課題も自分のことと捉え、人材育成に導いていきたいです」



人事部 採用・能力開発
グループマネジャー
Dさん
2005年入社(20年目)



《まるごう》の働きやすさ

レジスタッフとして経験を重ね副店長にキャリアアップ

無理なく働ける短時間パートの仕事から同社と出会ったMさん。2013年入社時から4年余りパートを続ける間に、仕事も楽しく、勤務時間も長くなった。「会社の「正社員登用は35歳迄」という規定が2015年になくなり、正社員を目指すようになりました」と語る。17年、念願の正社員になった後は、レジ部門でキャリアを磨き、レジチーフを経て、25年3月副店長に昇格。同年8月にリニューアルオープンしたみのかや店で、副店長を担っている。「顧客対応はもとより、店舗全体の売上・在庫・衛生管理、従業員のシフト作成や教育などさまざまな業務があり、イチから勉強中です」。出勤後の日課の中でも、駐車場と店内の清掃は欠かせない。お客様に気持ちよく買い物をしていただける店づくりが目標だ。



みのかや店 副店長
Mさん
2013年入社(13年目)



男性の育児休業取得を叶える万全のフォロー体制

カツやコロッケなどの総菜、弁当、寿司などを店内調理し、できたてを提供するデリカ部門。Kさんは、お好み焼きなど鉄板料理のチーフとして活躍中だ。「調理の際には、味、見た目、安全性に気をつけるよう心がけています」。入社時すでに1児の父親だったが、翌年の2017年、第2子誕生の際には、男性社員で初めて育児休業を取得した。「切迫早産で出産日が早まったのですが、部署のスタッフや本部の対応のおかげで、2週間の休業も前倒しで取ることができました」。続く第3子・4子誕生の時は、休業取得期間も3週間に増えた。「子どもの行事などでも休みが取りやすく、安心して仕事に打ち込めます」



上後藤店 デリカ部門
Kさん
2016年入社(10年目)



子どもがいる社員・パートナー社員に理解ある会社

毎日入荷する新鮮な魚介を切り身や刺身に調理し、パックに詰めて陳列する水産部門。2023年に改装オープンした五千石店の水産部門から異動したMさんは、保育園の年長・年中2人の母親でもある。勤務は6時~15時までの実働8時間。保育園の送迎は夫婦で役割分担し、お迎えを担当している。「子どもがいる社員・パートナーさんに理解がある会社だと感じます。産休や育休、育休明けの時短勤務の上に、子どもの病気など急な公休取得にも対応してくれます」。水産部門の上司の丁寧な指導で魚をさばくのが好きになり、家庭でも魚料理のリポートが増えた。もっと知識や技術を習得し、多くのお客様に魚のおいしさを届けたいと願う。



東福原店 水産部門
Mさん
2014年入社(11年目)



社会に出る希望を照らした《奨学金返済支援制度》

コロナ禍の就職活動時に、最も重要視したのは業界・業種の安定性。そんな中で、どんな時でも人が欠くことができない「食」に関わる仕事に就きたいと感じ、地元の食品スーパー、まるごうに入社を決めた。Aさんの背中を押したのは、会社説明会で知った《奨学金返済支援制度》だった。「大学時代に受けた奨学金の返済について、入社後10年間まで毎月最大1万5000円を、会社が補助してくれる制度を利用しています。社会に出ると、車を購入するなど自分への投資も増えるので、奨学金返済の負担が減ってありがたいです」。デリカ部門に配属され約4年。「お客様により求められる商品づくり」、それを促す売り場づくりが目標だ。



西伯店 デリカ部門
Aさん
2021年入社(5年目)

